

第13回 登別市中小企業地域経済振興協議会 議事録

平成26年12月19日(金) 18時30分～

登別商工会議所 会議室

- ◆出席委員：松山 哲男 会長
齋藤 正史 副会長
川田 弘教 委員
鈴木 高士 委員
近井 一夫 委員
吉元 美穂 委員
垣内 登紀子 委員
安達 陽子 委員
二瓶 秀幸 委員
井上 昭人 委員
苫米地 真一 委員
松田 毅 委員

計12名

- ◆事務局：商工労政グループ伊東商工労政・新エネルギー主幹
奥田主査
竹中担当員

- ◆登別商工会議所事務局：田村事務局長

- ◆議題：(1) 中間報告書について
(2) 登別市中小企業地域経済振興協議会の今後の進め方
について

【要旨】

項目	発言者	内容
中間報告書について	会 長	<p>今日は1点目に市に対する中間報告書の提出について、2点目に今後の進め方という流れで進めていく。</p> <p>まず1点目の中間報告書についてである。はじめに報告という事で協議会の取り組み、これまでの取り組み、また今後の取り組みについてである。</p> <p>まず、これまでの活動にかかる報告ということで、基本的な協議会における進め方を(1)の「現状認識と問題・課題について」として、当初の計画スケジュールについて記載している。次に、(2)の「将来展望について」は、当初の進め方におけるスケジュールに関する項目を別記している。</p> <p>(3)の「地域経済振興に係る総合的なビジョンの構築について」と(4)の「地域経済振興に係る総合的なビジョンに基づいた具体的な取組について」においても、今後予定されているシナリオを説明した内容になっている。</p> <p>5ページ目では、登別市中小企業地域経済振興協議会のこれまでの取組ということで、今までにやってきたことを書いている。(1)に、「登別市における各産業の現状把握」としてそれぞれの業界の当事者から意見をいただき、グループに分かれて討論をしたという旨の内容が記されている。</p> <p>(2)は「登別市における各産業の問題・課題の整理」ということで、これまでの各業界の問題・課題を整理し、「地場製品のPR不足」、「人材育成」、「人口減少・少子高齢化」などの問題があり、それらを踏まえ「方向性が不明確」、「雇用の場がない」ということも確認された。</p> <p>6ページは今まで各産業が抱える問題・課題について話し合ったことを付箋紙に書き出し、さらにそれをまとめたものだ。7ページ目は市内経済が抱える問題・課題とその原因を各産業バラバラではなく、全体として考えた時にどうなっている</p>

のかをファシリテーターと共に整理したものだ。先ほども少々触れたが、市内経済が抱える問題・課題とその原因ということで「PR不足」、「人材の問題」、「連携」、「方向性が不明確」、「雇用の場がない」という項目に分けた。8ページでは、登別市中小企業地域経済振興協議会の今後の取組について記載している。今後の取組としては、問題・課題が生じる原因をしっかりと把握しなければ問題・課題に対する抜本的な対応策を検討することは困難であることから、引き続き市内経済が抱える問題・課題及びその原因について協議を進めるとともに、専門家等からの助言等をいただきながら議論を深めていきたいと考えている。そして、問題・課題とその原因を把握した段階において、登別市が有する魅力や資源を有効に活用した中小企業及び地域経済振興に向けた今後の方向性や展望を見据えての協議を行い、問題・課題に対する抜本的な対応策について検討し、将来展望の実現に向けて取組を進めていく。抜本的な対応策の検討については、協議会で協議・研究を重ねてきた内容よりも深掘した内容になることが想定されることから、いくつかのテーマを設けて専門部会を設置するとともに、必要に応じて専門家等からの助言等をいただきながら、具体的かつ効果的な施策展開について検討を行う予定としており、平成27年12月頃までに市長への提言としてまとめられるよう協議会の取組を進めていくと記載している。

この中間報告の内容で良いのかについてご意見を伺いたい。

「はじめに」の内容のところを読み込んでみたのですが、どうしても引っかかる点がありました。まず1点目は「将来にわたり持続的に発展が可能な市内経済を構築し」の「持続的に発展が可能な」という部分が少し難しい表現なのではないかと思った。「持続可能な発展」ではないのか。ここが気

になり少し調べたのですが、今使われている小・中学校の教科書では「持続的発展」という表現の言葉は使っていない。いわゆる「持続可能な発展」という表現になっている。

「持続的に発展が可能な市内経済」ということでよいでしょうか。ではこの文についてはこのようにしていきます。では「少子高齢化や人口減少などによる地域経済の疲弊により、市内経済を支えている中小企業者にとっては非常に厳しい経営現状が続いています。将来にわたり持続的に発展が可能な市内経済を構築し」ということでよいだろうか。

委員

基本的なことを確認したかったのですが、3ページに条例第7条第2項に規定された「市が策定する～について広く研究し」という事がこの協議会の責務という事で書いてあるのですが、地域経済振興に係る総合的ビジョンや中小企業振興策については市が作成しているということによろしいですか。13ページの（基本理念）第3条に「市は、地域経済振興に係る総合的ビジョンの策定及び中小企業振興に必要な施策を講じ」というふうに書いてあるので、これについて研究するということがこの委員会の責務という事で理解していた。

第3条の第1項は、この条例の目的を達成する為に市は地域経済振興に係る総合的ビジョンの策定及び中小企業振興に必要な施策を講じるということになっている。これをやっていく上でこの協議会で総合的ビジョンの策定及び中小企業振興に必要な施策を研究して市長に提言する。

研究したことを市長に提言するという事です。7ページに「方向性が不明確」という項目があったのですが、「目標が不明確である、まちの方向性が見えない」というところと、原因のところ「登別市が進むべき方向性が見えてくる」と書いてありますが、登別市が進むべき方向性という

のは市が策定しているビジョンや施策を知らない
と返答できないのではないかと思ったので、8ペ
ージの「今後の取組について」はこれを理解する
ことが必要なのではないかと思った。

今話に挙がっていた「総合的ビジョンや中小企
業振興に必要な施策」というのは市としてはまだ
講じてはいない。今皆さんでやっていただいて提
言をいただいてからビジョンや具体的な施策を市
が作ることになる。あくまでも協議会の中で登別
市はこういう方向に向かっていったほうがよいの
ではないだろうかというのを提言の中に盛り込
み、それを市としては重要な参考にしながらビジ
ョンを策定する。

8ページの「問題・課題に対する抜本的な対応
策について検討し」というところに「優先順位」
という言葉を入れたほうが良いと思う。6ペー
ジや7ページの資料のまとめは中間のまとめだとは
思うのだが、羅列しても専門部会を開いても進め
られることは限られていると思う。

今の段階においては問題・課題が把握できまし
た。その原因を究明して掘り下げて整理します。
その中で対応策がいろいろ出てくると思う。その
対応策が出てきた段階において何が優先的にすべ
きなのかということなのであえてここで書く必要
はないと思った。取り組む基本的な方向性を記し
ているつもりだった。

委員

もし私がこの中間報告をもらっていなかったら
何をするのかが見えなかったので、それも含めて
これから決めるというふうにはっきりさせた方が
いいと思った。

会長

何を決めるのかというのは原因をはっきり究明
して掘り下げて、その中でステップ2において登
別市内にはどのような資源があるのか、それをど

のように使っていったらいいのか、いろいろな原因がある中でこれをやるべきだという、こういう取組をやっていきたいと思いますという事で何をするかというのは今の段階ではわからない。

委員

優先順位を付けてやっていかなければならないと思っているのであれば、書いても差し支えはないのではないだろうか。

会長

現段階においては具体的な優先順位は書かなくてもよいだろう。PR不足、人材の問題、連携というものについての問題がある。その原因を掘り下げてこれからどういう取組が登別の経済の為に必要なかということ協議していく。それがいくつも出てくる可能性がある。あるいは少数で終わる可能性もある。これは出てきた段階において優先順位をつけてやるべきかどうなのかということになってくるのではないだろうか。ですから現段階においてはそのような表現はいれなくてもいいと思っている。先ほどの「方向性が不明確」という部分において原因をしっかりと協議し我々がきちんと認識して、その中で登別市の中小企業地域経済の振興に向かった方向性が何なのかどうあるべきなのかということが見えてくると思う。それとともにまちの方向性が見えないなどの問題も踏まえ、行政としてうちのまちをこういうまちにしたいという話において経済などの関連性の中で行政がこういうふうに行っていきますよということでやっていかなければならないと思う。別の言い方をすれば、時代が変わっていく中で人口減少、少子高齢化という中において登別市としてどんな方向性（柱）を持っていろんな分野におけるどの方向で行くのかというのを出してもらいたい。それが無いというのが問題・課題として出てきた。

こちらのまとめ方としては経済においてはこういう方向で行きたいという明確なものを打ち出していかなければならないと思っている。打ち出していく為には問題・課題の原因を踏まえてからでないと打ち出せないと思っている。

委員

前回問題・課題を抽出する時にはメンバーも少なく、初めてファシリテーターを招いたという状態だったので、もう少し他に問題・課題を見つけていく必要があるのではないかとと思っている。

会長

2点目に係るお話が出たので、そちらのほうの説明をします。今後のスケジュールとして1月22日に日本政策金融公庫の深谷支店長から皆さんに配布している市内経済のデータを基にした分析をしていただいて、登別市の問題・課題の提起をいただこうかと思っている。そして2月5日に先ほど話に挙げた1月29日に行った問題・課題の整理で、PR不足や人材の問題、連携、方向性が不明確、雇用の場がないなどの5つに分類した。PR不足、人材の問題、連携の3つの問題に対する原因は何なのかということ整理した。ところが時間が足りなかった。そのため、もっと掘り下げて整理しなければならない。この条例を作る際に講演してくださった北海学園大学の大貝准教授が恵庭で恵庭の地域経済の調査報告書の策定に関わっている。その大貝准教授に登別市における今までの資料を配布し、その原因は何なのかということの分析をしていただいて、原因に対する我々が協議していく中の問題提起をしてもらおうかと思っている。ということでそれを2月5日に予定している。その後2月25日に前にもお呼びした岡山先生を再度お呼びし、前よりももっと深く掘り下げて整理していきたいと思っている。こ

れが26年度の今後のスケジュールとして計画しているものである。そういう流れでやっていきたいとおもっているので、今の段階において市内経済の問題・課題・原因をもう一回くらいファシリテーターを招いて整理していくことになると思う。原因を掘り下げていくことは一番大事なことだと思っている。先ほども言いましたが、熱が出た原因が風邪によるものなのか、内臓に異常が出ているせいなのか、何もわからないまま熱冷ましを飲んでも仕方がない。そういった原因をきちんと踏まえた中での処方箋を書いてもらわなければならない。地域経済あるいは中小企業の振興においても問題・課題に対する原因を踏まえなければなかなか解決しない。対症療法のような捉え方ではなかなかいいものが出てこない。このような思いでいるため、問題・課題の原因整理に時間をかけている。

27年の2月25日まで今後問題・課題の原因整理に時間を費やすわけだが、これから今後のイメージとしては27年度になった時には、これを踏まえてこれからどうしようかということになるのだろうか。

会長

そうですね。26年度においてはだいたいこの辺で整理をして、問題・課題に対する原因がわかってきたわけだから、それを踏まえて

次年度の12月くらいまでには方向性を最終提案して市長に報告するということですね。

会長

4ページの(2)将来展望について。地域資源について何点か意見交換をしていく。その中には研究者からのお話もあるかもしれないし、あるいは

は先進的な取り組みをしている事例等も勉強しながら登別においてはどうかという将来展望について協議を進めていきたい。次に、それらを踏まえて地域経済振興に係る総合的なビジョンの構築ということで取り組んでいきたい。そういう流れの中で専門部会というものも将来展望等を諸々協議していく中で具体的にこういう取り組みもやっていったらどうだろうかということ

いろいろな問題・課題が出てきているが、それに向けての専門部会の一つのものとしての専門部会なのか問題に対していろいろな

会長

ですから、今お話した通り問題・課題出てきている。その原因を究明してその原因を解決するためにこういうことも考えられるという可能性は十分にある。そういう中においてこれは今具体的にやっていきたいと思いますということが出てくると思う。その時に専門部会を設置して取り組んでいきたいと思います。その時専門部会というのは前にもお話した通り我々協議会の委員だけではなく、もっと広範に入ってもらってやっていこうというそういう考えでいる。

私が今までとこれからのスケジュールを確認したのは、当初から市長には中間報告としてこの時期にということには取り決めていたことではあるのですが、今年度はずっと問題・課題の原因の整理をするということで、これが終わってから中間報告でも良かったのではないだろうかと思っている。そして27年度はその解決策について研究を進めていきますというような仕切りのほうが良かったのではないかと思った。

会長

その点につきましては、以前の協議会で中間報告については具体的なものは出てこないということで今まで取り組んできたことを中間報告として報告しようという了解を得た中での今回の中間報告になっている。

それはそうなのだが、勉強している最中での中間報告はいかがなものかと思った。原因についてこういったことがわかったので、次からはこの解決のために進んでいきますというほうがすっきりしていて良いなと思ったんです。

事務局

3月に報告するということですね。

会長

それは確かに良いとは思うのだが、少なからず言えることはこの協議会において問題・課題だけの把握ではない、その原因は何なのか。それに対して今協議会で掘り下げてやっていかなければならないという部分においては、登別市においてはその原因の究明はあまり為されていなかった。その部分においては新たな取組をやっていていると思っている。またファシリテーターを招いてまとめていくということもあまり為されていないと思っている。こういった活動もひとつの問題提起なのではないかと思っている。たしかに一点に限定したものがあればそれに越したことはないのだが、それにおいては現段階では出せない状況だ。先日市長と立ち話をした際に、3期の基本計画に載せなくてもいいんですかという話をした。この協議会でも3期計画における内容と協議会でやっている内容は違う。あくまでも協議会は協議会でビジョンや柱を作り、3期計画は3期計画でまた違うことをする。いつかは一緒にならないといけない時が来るかもしれないが、現段階においては基本計

画は関係ないということでやりましょうということで了解を得ているので、基本計画の中においては振興協議会の中での取組をやっているという内容で良いのではないだろうか。

会長

それは前の段階で皆さんの意見を聞いて中間報告はこれで良い、3期計画もこの協議会でやっていることでいいということで了承を得て、その方向は別々だということで了承を得て進めていたので。

事務局

最初の状況だと事務局でもビジョンと基本計画の整合性を図ったほうが良いのではないかと提案をしたのだが、話の中では基本計画をあまり意識しすぎてしまうとビジョンをこれからどうしていくかという施策を考えていく上で、ビジョンが基本計画に飲み込まれてしまう。こういうことを敬遠する声が若干ある。基本計画は市の最上位計画になるので、それに基づきそれに向かって何事も進めていかなければならない。しかし最初からそれを意識したビジョン作りをしてしまうと、自分達が思い望むものにはならないのではないだろうかというような思いから、基本計画は基本計画で進めながらビジョンの作成はビジョンの作成で協議会の方で進めていきたいと思いますという話になっていた。なので、そのまま来ているので基本計画に全く触れないということではなく、市民の皆さんと中小企業者の皆さんと行政が競合して地域経済の活性化に向けた取組を行っていくのを推進していきますという大きな括りにはなってしまうが、当然そういう言葉は基本計画の中には入ってくるということにはなってくると思うので、これからもう少し時間はあり細かく産業躍動部会の中でもされると思うので全く関係ないということではない。

会長

この協議会の中で、より具体的な施策としてできたということもあるだろうし、あるいは政策と

してこういうふうにするべきだということもあるかもしれない。そういうことが出てきたということはビジョンの柱になる訳で、そういうところでこの協議会でやっていけば良いと思う。まずは中間報告の内容としてはこれでよろしいでしょうか。それではそういうことで。

事務局

ずっと考えていて、先ほど仰っていた優先順位のことなんですが、会長の言っていた後々やるから載せなくてもいいという案も一理あるし、吉元委員も言うように後々やるなら今から優先順位を付けてもいいんじゃないかというのもよくわかる。そういうような捉え方もできる。行政としては経済の話だけではなくて学校のこと等を限られた予算の中で事業をしていく為に優先順位が必要になってくる。その中で我々行政側が皆さまに提言してもらった内容でビジョンを作った時に行政の独断と偏見でこれはすぐできそうだ、これはお金がかかりそうだから後にしようというような話も出てくると思う。ただやっていく施策を羅列したものを出来るよりは、生の声でこれは重要だと思う、これが一番重要だよと示してもらえた方が説得力が、現場はこういうふうに言っているということを説明しやすいという思いもあり、皆さんはいかがだろうということを聞きたいと事務局としては思った。

優先順位を設定するというのは考え方としては普通なのだが、何かからやるという考えと同時にこれはやらないというものも当然出てくると思う。優先順位という言葉はもちろん付けてもいいと思うが、これは今やるこれは今はやらないという話の中では優先順位はいらんと思う。

たしかにできるものとできないものがある。捨てなければならないものもある。

役所があつて、登別の中にもいろいろな地域が

あつて、市長がいろいろなところを周って、それは部分で聞いていって、満足を高めていって一つの物という形になる。実際にはそれでは難しいだろうと思っている。これはやらないということを決めるのは非常に大事なことで、市全体を見渡して判断する場面、我々もその部分をしっかりと提案する。今順番をつけてその順番の通りに進めて下さいという提案はしたくない。

事務局
会長

こういった意見は我々としても参考になる。優先順位はとても大事なものだと思うが、一定のものが出てきたら優先順位のことも考えてできるが、問題・課題とその原因について少し触れただけの状態なのでまだやらないほうが良いと考えてしまう。

事務局

今の皆さんの考えを聞いていると、優先順位という言葉にしていいかはわからないが、当然このことは考えているという事で今回はこのままでもよろしいですか。

委員

最終的にはこれらは絶対にやってほしいということになるかもしれないし、そうなればいいけれどもならないかもしれないし。

会長

中間報告については、このような方向性で進め、12月25日に市長に報告する。今後のスケジュールについてですが、1月22日に日本政策金融公庫室蘭支店の深谷氏からお話を伺って、グループに分かれて整理していく。また、2月5日においては大貝氏から問題・課題の原因の整理ということで問題提起していく。その後意見交換していく。そういったものを踏まえて2月25日にファシリテーターの岡山氏を招いて問題・課題の原因の整理をしていきたいと思っている。お忙しいとは思いますが、日程調整をお願いしたい。ということで26年度中はこのスケジュールで進めていく予定だ。